

言語学者が言語の科学者になるために に必要な幾つかの心構え

黒田 航

言語学者でなく、言語の科学者になるためには、次のことを常に念頭におきましょう。

まず、自分が言語が何であるかを知らないということを知りましょう。

言語という現象が科学的な意味では未知の対象だということをハッキリ自覚しましょう。

言語が何であるかを知るためには、自分が言語に関して抱いているあれやこれやの思い込みを捨てる必要があることを自覚しましょう。

そのために、言語が何であるかを知っていることは、それを話せるという意味で「知っている」のとは根本的に別のことだということを理解しましょう。

また、自分一人が言語が何であるかを知らないのではなく、誰もそれを知らないのだということを知りましょう。

ある人が、まるで自分が言語が何であるかを知っているかのような言動を取っているのを見たら、警戒しましょう。その人は、どんなに魅力的なコトを言っているとしても、科学者というよりは煽動家であり、宗教家であることを見抜きましょう。

そのような人たちに警戒しなければならない理由は、彼らの言説が私たちが言語に関して根本的に無知なのだというのを忘れさせるからです。

言語が未知の対象だということを忘れさせるような見方に染まることのないように、極力警戒しましょう。それを忘れたら、あなたはもう科学者ではありません。

生物、化学、物理がキライで文系進学を選んだ単なるコトバ好きがある日、「〇〇文法」や「〇〇言語学」という理論に接した途端、何も苦勞しないで言語の科学者に突然変異するような、まるで「お伽話」のようなことは、絶対に起きないことを理解しましょう。

科学者として観察し、記述し、説明できるようになるのは簡単じゃないということを自覚しましょう。それは、ときには非常に長く地道な訓練が必要だということを理解しましょう。

科学者になるということは、科学者として思考する癖を身につけることだと理解しましょう。

科学者になるのが簡単でないのは、科学者として世界を見、それについて考えるためには、非科学者として世界を見、それについて考える仕方の一部を捨てる必要があるからです。

乖離の一例を挙げると、自分の判断と事実とのあいだに常に一致があるとは限らないコトを知りましょう。具体的には、あなたが今、二つのもの A, B を見比べて、それらが同じものだと

「判断した」としても、それは必ずしも A, B が同じであることの証拠にはならないということを知りましょう。この場合、A, B が同一であるかないかは何らかの証拠に基づいて確立される必要があります。このためには、あなたの主観的判断とは独立に何らかの証拠を出さなければなりません。

科学的実践の基本には異なる主観をもつ複数の主体の認識や評価のズレを最小にする努力が必要であることを理解しましょう。相手が自分を理解できない場合、単に相手が誤っているからではなく、自分が相手の理解できない想定や推論を行っている可能性があることに、常に気をつけましょう。

最後に、科学者になるのは簡単ではありませんが、ある程度の訓練を積めば、誰でも科学者になれるということを理解しましょう。

不幸な事情から、現状では「言語学者」と「言

「言語科学者」は同じでないことを理解しましょう。これは残念なことですが、多くの自称「言語学者」は科学者ではなく、従って言語科学者ではありません。

単なる言語学者ではなく、言語の科学者になるためには、言語について多くのこと、あるいは細かいことをあれこれ知っている以上に、科学者であることの方が重要であることを肝に銘じましょう